鹿児島市水道100周年記念式典レポート

【とき】令和元年12月2日(月)14:00 ～　【ところ】みなみホール(南日本新聞会館4階)

「生命の水(いのち) 故郷の水(ふるさと) 未来まで」100年の歴史を振り返り、水道の尊さを再確認

鹿児島市水道事業が始まり100年の節目を祝う式典が挙行された。100年間の先人の苦労と功績に思いを馳せるとともに、豊かな水資源を未来へつなぐ決意を新たにする機会となった。

市の発展は、水道の歩みとともに

令和元年12月2日、森博幸鹿児島市長をはじめ、鹿児島市水道事業に携わる関係者や本市水道局職員など、総勢221人が出席し、「鹿児島市水道100周年記念式典」が執り行われた。

第一部のオープニングは、鹿児島市出身の作曲家・吉俣良さんが手掛けた、鹿児島市テーマ曲「未来へつなぐ鹿児島」にのせ美しいイメージムービーが華やかに彩り、開式。主催者式辞として登壇した市長は「水道事業拡大の歩みは、政治・経済・文化・医療といった都市機能の発展の歴史と軌を一にしてきたもの」と述べ、「安全で良質な水の安定供給を、次世代に引継いでいきたい」と思いを語った。

先人の功績を称え、未来へつなぐ

続いて、来賓を代表して厚生労働省 医薬・生活衛生局 水道課　課長の熊谷和哉氏、日本水道協会理事長の吉田永氏、鹿児島県知事代理 鹿児島地域振興局 局長の井田原章一氏、鹿児島市議会議長の山口たけし氏の4名による祝辞が述べられた。感謝状贈呈では、南さつま市・南九州市・鹿児島市管工事協同組合・鹿児島県建設業協会鹿児島支部・鹿児島県建設業協会谷山支部の代表者が登壇。本市水道事業を長年支え続けている功績を称え、市長から感謝状が贈られた。

大正8年の通水から、戦争、度重なる自然災害など、幾多の試練を克服し、発展を遂げた歴史を映像で振り返った後、鹿児島市立八幡小学校4年生の児童7名が登壇。市長とともに、本市水道100周年を記念するスローガン「生命の水　故郷の水　未来まで」を元気よく唱えると、会場はあたたかい笑顔と拍手に包まれ、第一部が閉式した。

主催者式辞
鹿児島市長　森　博幸氏

感謝状贈呈

来賓

- ●日本水道協会　九州地方支部
  - ・支部長　福岡市長　髙島 宗一郎 氏　代理　福岡市水道局理事　有吉 知美 氏
  - ・北九州市　上下水道局長　中西 満信 氏
  - ・長崎市　上下水道局　業務部長　川崎 昌三 氏
  - ・熊本市　上下水道局　総務部長　永戸 成佳 氏
- ●日本水道協会　鹿児島県支部
  - ・鹿屋市水道事業　上下水道部長　郷原 竜児 氏
  - ・薩摩川内市 水道局長　新屋 義文 氏
  - ・霧島市 上下水道部長　柿木 安長 氏
  - ・いちき串木野市　上下水道課長　福山 修司郎 氏
  - ・伊佐市 水道課長　緒方 英明 氏
  - ・姶良市水道事業　施設課長　岩下 伸一 氏
  - ・さつま町　水道課長　三角 芳文 氏
  - ・湧水町　水道課長　酒瀬川　博 氏
- ●鹿児島県工業用水道部　工業用水課長　伊集院 崇二 氏　　他

アトラクション
松本圭使トリオ

第一部開式前の会場を盛り上げたのが、鹿児島を拠点に全国で活躍するジャズピアニスト・松本圭使さんを中心とするジャズトリオ。ジャズのスタンダードナンバーなど3曲を披露し、式典に華を添えた

児童による宣言
安全な鹿児島市の水がずっと先の未来まで、
安定して供給されることを願い、
水の尊さを忘れず、次の世代へと引き継ぐことを宣言した

水　それは生命(いのち)を守ります
生活を支えます

潤いや恵みを与えます
力も与えます

私たちは安全で美味(おい)しい
鹿児島の水を大切にし
次の100年に向けて
引き継いでいきます

「生命(いのち)の水 故郷(ふるさと)の水 未来まで」

第二部 記念講演
「鹿児島市の近代水道の歩みをふりかえる」

講師：東川 隆太郎 氏

鹿児島県の歴史や地理・民俗学を機軸に、独自の視点でまちを案内する"まち歩き"の達人としてもよく知られる東川氏。鹿児島市内の水や水道にまつわる場所の写真なども交え、軽妙なトークで講演が進められた

歴史を知って、水をもっと大切に

第二部の記念講演で登壇したのは、NPO法人 まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会 代表の東川隆太郎氏。

テーマは「鹿児島市の近代水道の歩みをふりかえる」。大正8年(1919年)近代水道誕生以前の江戸・明治時代へさかのぼり、鹿児島の水道の起源や、水にまつわる話が繰り広げられた。

歴史の表舞台ではあまり語られていないエピソードや、鹿児島ならではの地理的側面にも注目した話など、独自の視点で語られる内容に、参加者一同は興味津々。壮大な歴史の物語を今に伝える水道施設を巡った経験から、「今こうして水が当たり前に蛇口から出ること。それは、長い歴史のもとにあると思うと、より大切に使いたくなる。無駄にはしたくないと思える。水道の歴史を知って、水の大切さを感じてほしい」とのメッセージで講演を締めくくった。

水道は、今や私たちの生活に欠かすことのできないライフライン。その裏には、先人たちのたゆまぬ努力があったこと、常に安全な水を届けるために働く多くの人がいること、そして水は自然の恵みであること。蛇口をひねるたびに思い起こして飲む水は、よりおいしく感じられるに違いない。さらなる100年先に向け、大切に語り継いでいかなければならない。